

エージシュートを 1000 回達成した岩手の怪人

はじめに

HOLE	1	2	3	4	5	6	7	8	9	36	年月日
岩手山	4	5	4	3	5	4	4	3	4	36	T. S. H
SCORE											年月日
磐神山	5	4	3	4	5	3	4	4	4	36	GROSS HDCP
SCORE	6	4	3	4	5	4	5	5	4	40	81
北上川	5	3	4	3	4	5	3	5	4	36	NET RANK
SCORE	5	3	5	3	5	6	4	5	5	41	

プレイヤー署名 和泉 覚 マーカー署名 大森 慶

< エージシュート 1000 回達成時スコアカード >

筆者が初めて和泉氏にお目にかかったのは、2015 年 5 月初旬だった。岩手県にエージシュートを数百回達成している方がいる、この様な情報に接し、是非お目にかかりお話を伺いたいと考え実現した。

この当時、エージシュートを数多く達成しているゴルファーと言えば、株式会社市川ゴルフ興業の市川金次郎氏と九州の植杉乾蔵氏、このお二方が有名であり即座に思い浮かべた。筆者の情報力不足と、このお二方の露出が多かったと言うのも一因だと思うが、このお二方以外に思い起こせなかった。

このお二方は特別な方なのだという先入観が、筆者の脳裏を支配していた事もあり、和泉氏に関する情報はとても新鮮で衝撃的だった。この時に伺った内容は、すでに『ゴルフ偉人 名人 達人列伝』と言う Web サイト上で、「エージシュート 326 回達成_和泉覚氏を訪ねて」と題し、伝えさせて頂いている。

それから約 8 年が経過した 2023 年 4 月 25 日夕方、和泉氏から筆者のスマートフォンへショートメールが入った。その内容は、「24 日南部富士に於いてラウンド千回目のエージシュートを記録」、との連絡だった。初めてお目にかかった時が 326 回だったので、以降 8 年の歳月をかけ 674 回を達成した事になる。

即会ってお祝いの言葉をかけたかった個人的な気持ちが先走るものの、実際にお会い出来たのは遅れる事 5 月 13 日だった。

和泉覚氏とは

8 年前にお目にかかった場所は、和泉氏がホームコースにしている岩手県の南部富士カントリークラブだった。同クラブ社長・森澤良久氏のご配慮により、レストランの一角をお借りし、長時間に渡りお話を伺う事が出来たのだが、今回も又、同クラブのご厚意に甘える形になった。



和泉氏は朴訥とした口調ながらも、筆者の質問に対し考え込む姿は少なく、これまでの確にご回答頂いてきたが今回も同様だった。常日頃よりご自身の中で、物事の整理が出来ているが故に、戸惑い無く応えられているのだと思うと共に、頭の回転が速い方だと今回もまた感じさせられた。

今年 90 歳になりました、と和泉氏は自虐的に話される。8 年前に比べれば、筆者にはわからない何かが、少し違うと感じられているのだと思うが、それが何なのか第三者には分からない。

取材終了後、和泉氏の運転でゴルフ場から最寄り駅まで送って頂いたが、同乗者を不安にさせる様な運転では無かった。ゴルファーにとって車の運転は切っても切り離せないものなので、和泉氏がエージシュートに挑戦し続ける限り、車の運転は続くのだろう。

和泉氏の退職前の仕事は国家公務員（防衛庁）、その公務員時代に職場の同僚が主催するゴルフコンペで写真撮影を手伝ったのが、ゴルフとの出会いだった。それを契機に、ゴルフへ取り組む様になるのだが、その時御年 52 歳。

ゴルフの魅力にとりつかれた和泉氏は、60 歳にて定年退職を迎え、多くの同僚が第二の職場を求めたのに対し、就職する事無く「ゴルフ道」一直線に進む道を選択した。シーズン中は明けても暮れてもゴルフ、ゴルフの毎日を過ごし、その熱量は自宅の一室を改造しアプローチ練習場まで作ってしまった

ゴルフシーズンが終了すると、次は和泉氏のスキーシーズンが開幕する。雪解けになる 4 月初旬まで滑る様だが、足腰の鍛錬にもなる為、オフシーズンのゴルフトレーニングと位置付けられなくも無い。

急斜面を滑降して来る姿は、とても素人には思えない。実際にその姿を拝見した訳では無いものの、見せて頂いた写真は何よりも雄弁に語っている。

ゴルフにスキーこのスポーツを年間通じこなしている、90 歳の御年まで続けて来られている和泉氏を形容するならば、「スーパーおじいちゃん」なのだ。これは日常的なご本人の健康管理も当然影響しているものと思われるが、それと共に奥様の支えが大きい。

どんな時でもバランスの取れた食事を用意してくれ、ゴルフとスキーに取り組む和泉氏へ小言一つ言わない奥様、良き理解者であり応援者である奥様へ、和泉氏の感謝の念が絶える事は無い。

ところで「スーパーおじいちゃん」和泉氏を理解する上で、見落とせない点がある。ご本人曰く 18 歳の頃と現在で、身長や体重にほとんど変化が無い事だ。もって生まれたものと言ってしまえばそれまでだが、この優位性はなんとも羨ましい限りだ。

通常加齢と共に身長が1センチから2センチほど、小さくなる方が多いのでは無いだろうか。小さくならなくとも背中が丸まり、小さくなった様に見えるものだ。

またゴルファーの持病とも言える腰痛だが、和泉氏曰く「腰が痛いと感じた事が無い」とおっしゃっている。これらのお話を伺っていて感じるのは、世の中にはこの様な方がいるのだ、と言う驚き以外のなにものでも無い。世の中で何かを達成されている方は多いが、第三者には理解し得ない何かを、もっているのではないだろうか。これぞ正しく天の恵みなのだろう。

エージシューター・和泉覚氏_誕生

エージシュートとはとインターネットで Wikipedia (ウィキペディア) を紐解けば、「エージシュートは、ゴルフの1ラウンド(18ホール)ストロークプレイを、自身の年齢以下の打数でホールアウトすること」と記されている。

単純にこの意味を推論すれば、60歳のプレーヤーが60ストロークでラウンドすれば良いのだが、パー72の18ホールを12アンダーでプレーするなど現実的には可能性の低い話になる。エージシュートの可能性が現実味をおびてくるのは、70歳前後のプレーヤーになるのでは無いだろうか。

ではこのエージシュートを和泉氏が達成したのは、何時だったのだろうか。第1回目は70歳にして2003年5月29日盛岡カントリークラブにて、アウト33、イン37のトータルスコア70にて達成している。記念すべき日であり、1000回と言う大記録の始まりでもあった。

アマチュアゴルファーがグロス2アンダーでホールアウトする、年齢に関係無く一人のゴルファーとして素晴らしい記録では無いだろうか。

シングルプレーヤーへの道のりとその戦歴

52歳からゴルフへ取り組み始め、18年の歳月を経てエージシュートを達成した和泉氏だが、その進化の過程はどの様なものだったのだろうか。

和泉氏の人生初ラウンドは1985年9月に松島チサンカントリークラブで、そのスコアは138だった。以降進歩が目覚ましく、同年パブリックの阿武隈ゴルフ場の年次会員になり、初めて取得したハンディキャップは24だった。

ところで記しておかなければならないのは、当時ドライバーのヘッドはパーシモンだった。今日の金属ヘッドと比べ格段に飛距離が落ち、コース攻略は現在の用具に比べると比較にならない程、難易度が高かったと言える。パーシモンとは柿の木、つまり木製のヘッドを当時は駆使していたのである。

シングルプレーヤーになったのは1993年の60歳時、年間60ラウンドし平均スコアが82.71にてハンディキャップ9となったのである。8年の歳月をかけ一つの区切りになった訳だが、同時にこの年は定年退職と共に、ゴルフ道を突き進む決意を新たにした年でもあった。

61歳時にはハンディキャップ5となり、同時に南部富士カントリークラブの倶楽部対抗選手に選出されている。

ゴルフの腕前が進化すると共に和泉氏は、倶楽部競技に限らず様々な試合、例えば全国的規模の大きな大会へも参加している。中でも一番の思い出は、2005年10月27日～28日の2日間、福岡県の伊都ゴルフ倶楽部で開催された2005年度(第12回)日本グランドシニアゴルフ選手権競技だ。

優勝には1打足りず2位になったものの、最終日のスコア70はベストグロスとエージシュートを達成し、生涯出来の良かった試合だったと振り返っている。この時御年70歳、9回目のエージシュートだった。

和泉氏は県代表大会や全国大会などへ出場するにあたり、その交通手段は基本的に自家用車と決めている。自由が利くからと言うのが理由だが、名古屋近辺までなら労を厭わない。しかし70歳代後半からは、遠隔地で開催される全国大会などへは、足が遠のきつつあり東北管内の試合に限定し出場している。なお倶楽部競技外の試合に於ける主だった優勝は、下記一覧の通り。

★ 岩手県アマチュアゴルフトーナメント シニアカップ	優勝5回
★ 岩手県アマチュアゴルフトーナメント グランドシニアカップ	優勝2回
★ 岩手県ミッドシニアゴルフ選手権競技	優勝3回
★ 岩手県グランドシニアゴルフ選手権競技	優勝3回
★ 東北ミッドシニアゴルフ選手権競技	優勝1回
★ 東北グランドシニアゴルフ選手権競技	優勝1回

エージシューター・和泉覚氏__その2

全国区での活躍と実績も残せてきている和泉氏だが、ことエージシュートに関しては次の様に話されている。

「探せば全国にエージシューターは数えきれないほど存在するのでは無いでしょうか、しかし記録が残って無く、あるのはご本人の記憶のみになっています。」

この和泉氏の発言は、含蓄に富んでいる。全国に於けるエージシュートへの記録不足が、周囲の理解不足につながっており、ゴルフ業界に於ける盛り上がり欠ける要因にもなっている。エージシュートの偉業を多くの方に確認して頂ける記録と公開が、今後何よりも求められて来るのでは無いだろうか。

なお倶楽部や大会によっては、エージシュート達成の証明書を発行しているが、和泉氏もそのいくつかを受領している。

和泉氏はラウンド終了後にパソコンへ向かい、その日のデータを集計し記録している。同伴者が何方だったかも、当然記録されている。

2023年の現代においては、何ら不思議ではないごく普通の日常風景の様に思えるが、氏の記録媒体・装置への取り組みは早い。長らく日本で主流だった和文タイプライターがワープロへ、氏がそのワープロに組み組み始めたのは54歳時の1987年からである。以降ワープロがパソコンに置き換わり、90歳の現在も日々記録を綴っている。

エージシュート達成の記録と平均スコア紹介

下記一覧表は和泉氏が達成したエージシュート1000回の記録を、100回区切りで表記したものである。またその下段には年間の平均スコア、この集計表は和泉氏がまとめたものだが、掲載させて頂いた。

回数	日付	年齢	コース	スコア
1回	2003年05月29日	70歳	盛岡カントリークラブ	70
100回	2010年07月19日	77歳	南部富士カントリークラブ	77
200回	2012年09月04日	79歳	南部富士カントリークラブ	73
300回	2014年09月23日	81歳	南部富士カントリークラブ	76
400回	2015年10月17日	82歳	盛岡カントリークラブ	81
500回	2016年10月20日	83歳	南部富士カントリークラブ	78
600回	2017年11月11日	84歳	盛岡カントリークラブ	78
700回	2019年05月09日	86歳	南部富士カントリークラブ	79
800回	2020年07月03日	87歳	南部富士カントリークラブ	80
900回	2021年08月24日	88歳	南部富士カントリークラブ	78
1000回	2023年04月24日	90歳	南部富士カントリークラブ	81

西暦	年齢	回数	平均スコア
1993年	60歳	60回	82.71
1994年	61歳	72回	80.48
1995年	62歳	69回	79.82
1996年	63歳	78回	79.83
1997年	64歳	90回	78.71
1998年	65歳	84回	78.46
1999年	66歳	92回	77.75
2000年	67歳	87回	78.54
2001年	68歳	72回	79.36
2002年	69歳	71回	78.42
2003年	70歳	68回	78.52
2004年	71歳	92回	77.97
2005年	72歳	90回	78.33
2006年	73歳	82回	78.40
2007年	74歳	79回	77.17

西暦	年齢	回数	平均スコア
2008年	75歳	79回	78.60
2009年	76歳	86回	78.25
2010年	77歳	90回	77.80
2011年	78歳	92回	77.36
2012年	79歳	72回	78.63
2013年	80歳	43回	79.34
2014年	81歳	78回	78.96
2015年	82歳	100回	78.34
2016年	83歳	95回	78.34
2017年	84歳	94回	78.86
2018年	85歳	84回	79.25
2019年	86歳	81回	79.04
2020年	87歳	81回	80.50
2021年	88歳	76回	81.34
2022年	89歳	70回	82.25

和泉氏がお住いの岩手県は、降雪の関係からゴルフシーズンとえば早くて4月初旬から、そして11月下旬で終了するのが一般的である。この様な中、和泉氏のラウンド回数は年間43回から100回に及ぶ。

毎年4月中旬の出だし数ラウンドは、不調に終わるケースもある様だが、以降は毎ラウンドでエージシュートを達成している。上記平均スコア表は、これを何よりも裏付けている。そしてこのたゆまない連続の結果、約

20年の年月をかけエージシュート1000回は達成された。

体力と技術の衰えが少ないからこそ、90歳にして80前後のスコアでプレー出来ている。「衰えが少ない」この点こそが、和泉氏のエージシュートを語る上で、最大のポイントになるのではないだろうか。

和泉氏を突き動かしているもの

では何故和泉氏は、衰えが少ないのだろうか？①日常的鍛錬が継続されている ②身体的特性 ③高いモチベーションを維持、どれもこれも何かを成し遂げるアスリートには、必要不可欠な要素なのだろうと思われる。しかしこれらの要素のみでは、エージシューター和泉氏を語れないのではないだろうか。

暴論かもしれないが、(和泉氏が生まれながらもっているもの)、この点に尽きる様に思われて仕方ない。

和泉氏は人生の半分とも言える時間を、ゴルフとスキーに費やし、そして記録を残して来ている。これらはある意味、和泉氏の人生そのものの、と言っても過言では無い。60歳で定年退職し、残りの人生はゴルフとスキーで頑張る、この様に決意させそしてやり遂げられている、この思いは何処から来ているのだろうか。突き動かしている思いは、何なのだろうか。

この点を和泉氏へ尋ねても、多くを語ろうとしない。

ところで9月19日、和泉氏へお願いしていた資料が筆者へ届いた。この中の資料には、9月15日に盛岡カンントリークラブでプレーし、スコア83にて1035回目のエージシュートを達成した事が、記されていた。

とにかくプレーすれば年齢以下でまわられる訳なので、健康であれば向かうところ敵なし、なのである。和泉氏はこの先一体、何回達成されるのであろうか？

今回エージシュート1000回と言う大記録を打ち立てた、岩手県の怪人・和泉覚氏を取り上げたが、少しでも和泉氏の偉業を伝えられたのであれば、これに勝る幸せは無い。このあたりでペンを置きたい。

2023年9月22日

文_大野良夫

© Yoshio Oono

日本ゴルフジャーナリスト協会 会員